

平成 28 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

1. 学校概要

学校名 金沢市立長坂台小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒921-8112
石川県金沢市長坂3丁目14番1号

E-mail nagasakadai-e@kanazawa-city.ed.jp

Website <http://www.kanazawa-city.ed.jp/nagasakadai-e/>

児童生徒数 男子 193名 女子 190名 合計 383名
 児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

3年生 (総合的な学習の時間)

人がつながるまち金沢

金沢は、全国の中でも和菓子の消費量が多く、和菓子で有名な街であることを知ったことをきっかけに、調べ学習を進めていった。その結果、和菓子は、季節や行事に応じて食べられていることや加賀藩藩主前田家がお茶文化を勧め、盛んになったことから、人々の生活に根付いていったことなどが分かった。さらに、和菓子を作ったり食べたりする背景には、家族の健康や子どもの健やかな成長を願う人々の思いが込められていることにも気づくことができた。

実際に氷室まんじゅうや福梅を味わったり、和菓子工場を見学したり、和菓子職人から和菓子作りを学ぶ体験をしたりしたこと、職人さんの技術やこだわりについても学ぶことができた。

4年生 (総合的な学習の時間)

わたしたちのふるさと金沢

長坂台に受け継がれてきた物として穴地蔵や孝子義子の碑について本などから調べることができた。今もなお、地域の方から大切に受け継がれているのには理由があることを確認することができた。

長坂台に伝わる踊り「あさんがえし」については地域の保存会の方から振り付けだけでなく、その意味や由来について教えていただき、運動会では全校に学習の成果を披露することができた。また最後には保存会や地域の方、上級生や下級生も参加し、1つの輪になり踊りを楽しむことができた。

長坂用水の学習では、当時の用水を作った人々の努力や工夫を学習した。また用水を掘る時に使用する道具を触らせてもらうことができた。現在の道具と違い、全て人の力で作業を行うことの大変さや、掘る作業を行うだけでも様々な道具を使い分けながら進める工夫に、児童は気づくことができた。

金沢の偉人については、ふるさと偉人館の見学を通して、一人一人調べたい人物を決めた。画用紙などにまとめ、地域や他学年に向けて学習の成果を発表することができた。ふるさとを思い、ふるさとの良さを継承するための努力をする素晴らしさを感じることもできた。

5年生 (総合的な学習の時間)

ど～するぼくらの明日 ～僕たちの身の回りについて考えよう～

「環境問題」という言葉はよく耳にする。しかし、いったいどんなことが問題になっているのか、どうしてそのようなことが起こるのかという疑問から、自分達の住む地球について考えることにした。そこで、グループごとに分かれて、現状と、それを解決するための課題という2つの視点で調べ活動を行い、自分達の考えをまとめた。

調べ活動を通して、現状のままでは自分達の住む地球の環境は悪くなること、それに向けた対策を自分達だけが行っていても解決につながらないことから、もっと多くの人たちに伝えて広げていこうという思いを持ち、「ど～する？ぼくらの明日」をテーマに全校や保護者、地域に発表することにした。参観者が地球の環境について関心を持ち、考えてもらえるよう、グラフや図、具体物を用いたり、実験や体験を取り入れたりするなど、発表方法を工夫した。

この学習を通して、地球の環境は、自分達の生活とつながりがあることを知り、自分達にできることを続けることで、今だけでなく未来の地球を守ることに繋がると考えることができた。また、全校や保護者、地域に自分達の考えを広げていくことを通して、大きな問題も、一人一人の取組があれば解決できることを感じたであろう。これからも、身の回りの問題に目を向け、周りとは協力しながら解決する気持ちを持ち続けてほしい。

6年生（総合的な学習の時間）

ひびき合う ～今自分にできること～

私たちは、自分の周りにお年寄りや障がいのある人が住んでいることに気づいているだろうか？お年寄りや障がいのある人たちは「暮らしにくいな。」と感じていることに気づいているだろうか？という問いかけから学習に入り、＜身の周りを見つめ直そう＞の課題から福祉についての学習を始めた。

お年寄りや障がいのある人の気持ちに少しでも寄り添えるように、車いす体験やブラインドウオークの体験活動を行った。体験を通して、お年寄りは思うように体が動かない歯がゆさを、車いすは段差のある道や部屋での操作の難しさがあるのではと感じた。さらに、車いすバスケットボールクラブの方々と交流をし、車いすバスケットボールの体験を行った。障がいがあっても安全で動きやすいように車いすが工夫されていることを知り、自分たちと同じようにスポーツを楽しむことができることを知った。また、クラブの方のお話から、障がいがあっても道具や設備があれば、自分たちと同じように生活できることを知り、自分たちにできることは何かについて深く考えることができた。

（２）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）